

# 地域学部



多文化共生社会の批判的想像力  
—社会的分断の論理と構造を知り、他者との共生の条件を探る—

地域学部

教育



【活動概要】

「多文化共生社会論」は地域学部地域学科の選択科目であり、人文・社会科学の専門知と市民社会の実践知から、現代社会における他者との共生の条件を探ることを目的としています。近年は「多元主義の時代の差別的な日常—「社会的分断」のつくられ方を問いなおす」をメインテーマとして、多様性が称賛されながらも、なおも根絶されない差別・排除が私たちの日常に満ちているという、パラドキシカルな時代状況に着目した講義を展開しています。講義では、被差別部落／ホームレス／障がい／ジェンダー／セクシュアリティ／移民・難民／原発避難等に関わる当事者のリアリティに学びながら、「私たち」と「彼ら・彼女たち」のあいだに社会的分断が生み出される際の論理と構造を捉えていきます。専門知のみならず、ゲストによる講義を設けることで、社会的分断を生きる当事者や支援者による実践知にも学びながら、オルタナティブな（もうひとつの）社会の在り方を構想するための批判的想像力を鍛えています。

私たちが日々生きているローカルな地域を、社会的分断の生じる現場としてのみならず、多様な背景を有する他者たちとの「つながり」の下にある現場としても再発見することで、受講生一人一人にとっての他者との共生に向けて、等身大のヒントをつかめるようになることが、この講義の目指すところです。



画像：塩原良和・稲津秀樹編,2017『社会的分断を越境する—他者と出合いなおす想像力』青弓社。

【担当】代表者：稲津秀樹（地域学部地域学科地域創造コース）

稲津秀樹研究室(専門ゼミ/卒業研究)  
—「弱者が弱者のままで尊重される社会」を考えるジェンダー研究の実践—

地域学部

教育



【活動概要】

地域学部地域創造コースの稲津秀樹研究室では、学生自らにとっての切実な課題を、地域、ひいては社会の問いへと転換させる当事者研究の実践—アクチュアリティの社会学—を展開しています。2021年度～22年度に所属した学生数名かは、自らにとっての母と子（娘）の関係理解から、地域社会におけるジェンダー秩序を再考するとともに、現代フェミニズムの思想を探究しました。

この成果の一部は、2022年10月28日-30日まで鳥取県倉吉市にて開催された「日本女性会議2022 in鳥取くらよし」の記念シンポジウムにて発表されました。「弱者が弱者のままで尊重される社会とは？—『ひとりでも生きていけそう』と言われる私たちの経験から」と題して、フェミニズム思想/ジェンダー論が専門の上野千鶴子氏（東京大学名誉教授）との公開対談が行われました。1200人（報道発表）の聴衆に向けて、「自生への問い」から既存のジェンダー関係を問い直した学生たちの議論は大きな反響を呼び、終了後、NHKニュース/日本海新聞等で報じられることになりました（詳細内容は、スライド記載のURLにある大会報告書を参照下さい）。



記念シンポジウムの様子

【担当】代表者：稲津秀樹（地域学部地域学科地域創造コース）

画像はいずれも「日本女性会議2022in鳥取くらよし」大会報告書（下記URL）より転載。  
<https://www.city.kurayoshi.lg.jp/jwc2022/news/report/>

教育



【活動概要】

地域学部地域学科地域創造コースの専門科目である「社会福祉」「福祉行財政」「地域福祉」「地域包括ケア論」について、1年次必修科目である「社会福祉」では、少子高齢化や世帯構造、就業構造、地域構造等の社会変化をふまえながら、貧困をはじめとする様々な生活リスクに対応する社会保障・社会福祉の制度概要や基本理念、発展の歴史、行財政の仕組み等について基礎的な学びを提供します。

2年次選択科目である「福祉行財政」では、自治体が主体とする社会福祉の制度政策やサービスの側面を中心に講義を行い、前半の総論では社会福祉の行財政のあり方や政策理論について理解を深めるとともに、後半の各論では、生活保護や生活困窮者自立支援制度を中心に社会的排除の現状と克服に向けた対策や、介護保険制度を中心とする高齢者保健福祉サービスを通じた高齢者の生活支援の現状と課題等について学びます。

2年次選択科目である「地域福祉」では、地域住民やボランティアが主体となって地域を基盤に自主的に取り組まれる福祉活動にスポットを当て、ノーマライゼーションやソーシャル・インクルージョンの理念をふまえながら、住民が福祉活動に主体的に参加する意義や参加促進に向けた各地の取り組みを学びます。さらに、住民参加を支援する専門機関としての社会福祉協議会の役割について学びながら、持続可能な福祉のまちづくりの現状と課題について理解を深めます。

3年次選択科目である「地域包括ケア論」では、これまでの学びを発展させて、福祉・医療専門職による在宅ケアの現状や、専門職間の連携体制づくりや専門職によるフォーマルケアと地域住民によるインフォーマルサポートとの連携による包括的支援体制づくりについて理解を深めるとともに、「地域共生社会」の実現に向けた地域包括ケアシステムづくりの課題と展望について学びます。

【担当】 代表者：竹川俊夫（地域学部地域学科地域創造コース）

鳥取県八頭町との連携による  
地域共生社会の実現に向けた地域を基盤とする住民主体の福祉活動推進  
基礎組織づくりや福祉の学び場づくりに関する研究

研究



【活動概要】

鳥取県八頭町では、2012年に策定された第1次「八頭町地域福祉計画」によって、住民が地区を単位に自主的に福祉活動や防災・まちづくりに取り組む「まちづくり委員会」の設立が提起され、2019年10月現在、14地区中10地区まで組織化が進むとともに、高齢者の介護予防活動（100歳体操）や地域交流活動（まちづくりカフェ）を中心に様々な福祉活動が実施されています。

現在八頭町は2018年6月に策定された第2次計画（八頭町社協との協働による「八頭町地域福祉推進計画」）に基づき、まちづくり委員会の機能強化を通じて地域包括ケアシステムづくりや地域共生社会の実現に取り組んでいますが、そのためにはより多くの住民の参加と協力が必要です。本研究は、そうした課題に応えるべく、住民が「我が事」としてまちづくり委員会の活動に参加し、地域の様々な団体と福祉専門機関が「丸ごと」つながるための学びの場づくりと、それを通じたまちづくり委員会のさらなる発展や八頭町全体での包括的支援体制の構築に向けた方策を実践・研究するものです。



廃止された保育園を活用した八頭町の「まちづくり委員会」の活動拠点（下私都地区）



活動拠点で取り組まれている住民主体の福祉活動（写真は「いきいき100歳体操」の様子。カフェや見守り支援活動等、地域の実情や課題に応じて多様な活動が実施されています。）

【担当】 代表者：竹川俊夫（地域学部地域学科地域創造コース）

## 自然の「過少利用問題」解決を目指す 地域共創実学教育

地域学部

教育



### 【活動概要】

鳥取県東部を舞台として、地域で活躍する農家・林家・漁家と鳥取大生の協働によって、アンダーユースとなった海・山・野の再資源化を目指す地域共創実学教育です。

具体的には、鳥取県東部の「耕作放棄地」「間伐遅れの山」「放棄漁場」を再び糧とする営みに、地域学部地域創造コースの学生らが身体を伴って参画します。そして、現場が直面する具体的な課題を身体で体感したうえで、学生らが現場と共に悩んで問題解決の道を模索するためのワークショップを実施しています。

本授業の特徴は、第一産業（農業・林業・水産業のすべて）を通じて、自然と共にあると人々との協働するなかで、「人と自然の関係」を学ぶ授業形態にあります。アンダーユースという現代的な地域課題の最前線で模索する人々との身体ベースの協働から、「持続性」の理念を再考する「学びの場」を創出しています。



日本3大林業地(智頭林業)の歴史を体感する学生ら

近年になり、鳥取の沿岸漁業振興として導入された定置網漁



ブランド米の確立に向けた自然乾燥のためのはせがけ作業

【担当】代表者：村田周祐（地域学部地域学科地域創造コース）

## 都市再生論

### 持続可能で住みよい都市の在り方に関する国際比較研究

地域学部

教育、研究



### 【活動概要】

地球温暖化への対応から低炭素社会への転換が求められ、コンパクトシティなど脱クルマ依存型の都市形態がよく知られるようになりました。他方で多くの都市がモータリゼーションに対応した都市構造となっている地方圏の現状では、それだけでは住みよい都市にはなり得ません。リバブルシティは、欧米ではポピュラーな望ましい都市の概念で、インフラ整備による生活利便性のほか、経済基盤や治安、教育など多様な評価観点をもつ点に特徴があります。本研究では生活利便性に優れた大都市型の都市タイプだけでなく、それとは異なる住民の生活満足度の高い多様な都市の在り方などを、国内外の事例を比較検討することを目的としています。

他方で21世紀は、途上国の人口増加にともないこれまで人間活動が低調であった地域でも都市開発が活発化し、砂漠など乾燥地での開発が進んでいます。こうしたサブ・アネクメーネでの開発は環境負荷が大きく、持続可能性が低いなど多くの課題があります。かかる地域での都市開発の動向や課題についても視野を広げ、研究に取り組み教育に還元しています。



フランス・グルノーブル。公共交通の再生で環境問題と生活利便性の改善に取り組む。



モンゴルの首都ウランバートル。急速な人口集中のため生活環境の整備は後手に。

【担当】代表者：山下博樹（地域学部地域学科地域創造コース）

地域の伝統文化を受け継ぐ人材の育成  
—地域と連携した山陰の「一式飾り」の継承の取り組み—

地域学部

教育



【活動概要】

山陰では、「一式飾り」と呼ばれるユニークな民俗芸能が、江戸時代後期より受け継がれています。これは地域の祭りにおいて、地区ごとに生活用品一式を、話題の人物や干支の動物などに巧みに見立てて飾り、作品の出来栄を競い合うもので、地域の暮らしを彩る貴重な生活文化です。ところが、近年の急速な人口減少に伴い、伝統文化の担い手が減り続け、伝統の継承が大きな課題となっています。こうした状況に対し、研究室では2011年より毎年地域と連携してフィールドワークを実施し、地域の方から伝統の技を学ぶなどして「一式飾り」の価値を見直す研究に取り組み、さらに2014年からは「一式飾り」が伝わる鳥取県南部町の小学校において、次世代を担う地域の子どもたちに伝統の価値を伝える学習を研究開発して実践する活動に取り組み、地域の伝統文化を受け継ぐ人材の育成を目指しています。



地域の方から指導を受けて制作・展示した山陰の「一式飾り」。写真は陶器一式による作品。



地域と連携して2014年から毎年小学校で実践している「一式飾り」の授業風景。

【担当】 代表者：高橋健司（地域学部地域学科人間形成コース）

地域調査プロジェクト(人間形成コース2年次演習・実習系科目)

地域学部

教育



➢ 移行対象の有無による赤ちゃんの心理状態の変化について（発達福祉）



- 母子生活支援施設学習支援・学童保育プロジェクト（発達福祉）
- マスクの印象（発達福祉）
- 特別支援・障害者問題（発達福祉）



➢ Study and Research Paths of university freshmen（学習デザイン）

- 小学校英語教育（学習デザイン）
- 小学校免許取得希望学生の理科指導改善に向けた予備的調査（学習デザイン）
- 子どもの音楽イベント（学習デザイン）
- 歩こう！鳥大生！ウォーキングマップ（学習デザイン）



- 在日朝鮮人と地域社会(地域と教育)
- 「居場所」としての図書館（地域と教育）
- 地域共生社会について(地域と教育)
- 気候変動と心理学(地域と教育)
- 郷土玩具について(地域と教育)

※2021年度  
のプロジェクト



地域の学校や児童クラブ、こども食堂など、人間形成に関わる様々な場所が調査対象となります。



フィールドワークや教育実践、実験の研究など、多様な調査方法を用いながら活動を展開します。

【概要】

人間の形成作用(産・育・訓・教)及び生涯にわたる人間形成を見通す、地域教育をとらえる上で共通に持つべき基礎的方法を学ぶとともに、具体的な地域の教育にふれることで、地域教育を学ぶ意欲を培う2年次開講科目です。人間形成コースの全教員が、それぞれの研究分野の特色を生かして立ち上げたプロジェクトに分かれて学習活動が展開されます。地域における諸活動を教育という視点から捉える能力を身につけること、疑問を持ち、科学的な手法を用いて検証する能力及び、仮説設定から先行研究の検討、調査・分析、発表にかかわる技能と態度を身につけることを目標としています。

学年	必修科目	演習・実習系	選択科目
1年次	地域学入門 地域教育学入門 学習社会学 学習とカリキュラム	大学入門ゼミ 地域フィールド演習	心理学系科目 保育の児童教育系科目 特別支援教育系科目 教育系科目 教科教育系科目
2年次	生涯発達論	地域調査プロジェクト 保育実習 海外フィールド演習	発達福祉プログラム 地域と教育プログラム 学習デザインプログラム
3年次	地域学概説 家族支援論 地域教育福祉論(障害児)	保育実習 教育実習(基礎) 教育実習(応用) インターンシップ 専門ゼミ	発達福祉プログラム 地域と教育プログラム 学習デザインプログラム
4年次	卒業研究	教育実習(応用) 保育・教職実践演習(幼・小) 教職実践演習(中・高) 人間形成ゼミ	発達福祉プログラム 地域と教育プログラム 学習デザインプログラム

【担当】 鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース・教員養成センター

📖 教育、研究、社会貢献、課外活動



# 見る場所を見る

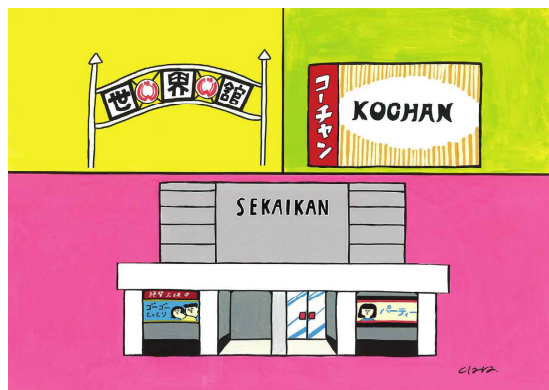
アーティストによる鳥取の映画文化リサーチプロジェクト

## 【活動概要】

「見る場所を見る」は、新聞記事・記録写真などのノンフィルム資料や当時を知る人への聞き取り調査などをもとにして、鳥取県内にかつてあった映画館およびレンタルビデオ店を調査し、鳥取を拠点に活動するイラストレーター Clara によるイラスト作品を通じた記憶の復元を試みるプロジェクトです。

2022年1月に鳥取市内を調査対象とした成果報告展、2023年1月～2月に米子・境港市内を対象とした成果報告展を開催しました（共に Gallery そら）。2023年8月には、米子市立図書館との共催事業として巡回展「見る場所を見る2+—イラストで見る米子の映画館と鉄道の歴史」、12月には倉吉市と郡部を調査対象とした成果報告展を開催する予定です。

資料とイラスト作品の展示を通じて鑑賞者の記憶を引き出し、さらなる情報提供や資料提供から、次の調査・研究につなげていくサイクルを形成することができています。



Clara 《世界館》（川端2丁目／1914年開館）2022年



成果報告展・会場風景



巡回展チラシ

【担当】 鳥取大学地域学部地域学科国際地域文化コース  
佐々木研究室（佐々木友輔、杵島和泉）

## 東アジアプロジェクト

📖 教育



## 【活動概要】

鳥取大学地域学部では「東アジアプロジェクト」を進めています。海外で言葉や生活習慣を高い壁と感ぜないで一步を踏み出せる人、必要な知識と言語、現地感覚を備えた人を育成するためです。提供しているのは、中国（厦門大学）・台湾（高雄師範大学）・韓国（梨花女子大学校、慶熙大学校）の学生を迎えるプログラムと、海外プログラム（中国、韓国、台湾）です。1週間から10日間で、言葉を学び地域調査をします。

また、地域学部では勉強会で留学生と言語を教え合っています。互いにサポートし合ううちに、「中国文化」「韓国文化」といった捉え方をしなくなり、「東アジア」が仲間の顔の見える、生きた世界になっていくのです。

大学ネットワーク

東アジアで活躍できる人材育成

地域学部地域学科  
国際地域文化コース



【担当】 代表者：柳静我、岸本覚、アレクサンダー・ギンナン  
（地域学部地域学科国際地域文化コース）